

日本モンテッソーリ協会（学会）近畿支部の研修会を1月14日に奈良カトリック幼稚園のホールにて行いました。

今回の研修会は、京都モンテッソーリ教師養成コース長の岡山真理子先生にお越しいただき、『幼児の音楽教育で大切なこと』－深草こどもの家での音楽実践を通して－と題して、歌と合奏についての講義と実践について学びました。

風の音や、木の葉のこすれる音、縄跳びを跳ぶリズムなど、音楽は生活の中にたくさんあり、歌を歌ったり、演奏することだけが音楽でないことを改めて認識しました。

子どもたちと歌を歌うときは、保育者は子どもに口元をしっかりと見せて歌ったり、情景をイメージしやすいように、説明したり実物を見せたりすることが大切だと学び、保育の中でも、実践してみると、子どもたちが保育者の口元をよく見て歌ったり、イメージが広がることで歌詞を丁寧に歌う姿が見られました。

合奏も実践しながらたくさんの楽器に触れ、楽しみながら楽器の音を感じたり、生活の中で「自然」と「楽器」に触れる時間をつくることの大切さを学び、モンテッソーリ教育で大切にしている子どもの自由な心と感性を伸ばすことに繋げていけたらと思います。



講師の岡山真理子先生



好きな楽器を選んで合奏



80名の参加者が熱心に受講